

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年 4月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	0770900215		
法人名	有限会社エクセル		
事業所名	グループホーム えくせる		
所在地	〒976-0016 福島県相馬市沖の内三丁目7番6号 (電話) 0244-36-4490		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年3月28日	評価確定日	平成19年4月26日

【情報提供票より】 (平成19年2月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 14年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	12人 常勤 7人, 非常勤 5人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,440 円	その他の経費(月額)	13,224 円	
敷金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		850 円	

(4) 利用者の概要 (2月25日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	63歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大石医院、山下歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

企業の社宅が立ち並ぶ新興住宅地の一角にある、一般の二階建て木造住宅を改築したホームである。玄関にはホーム名を、ドアリースに飾り付けるなどの工夫をしたり、玄関脇に植栽された梅が季節感を漂わせ、家庭的なたたずまいが感じられる。地域密着型サービスとして、地域に開かれた地域住民との共生を理念に掲げ、安心して楽しく快適にその人らしい生活を過ごせるよう、センター方式を活用して介護計画を作成し、その実現に向けたケアに当たっている。運営推進会議では、ホームの実態について説明し理解や支援を得ると共に、地域に開かれた事業運営についての方策や、近隣との交流等をテーマに話し合い、ケアに活かすよう努めていることが記録から見受けられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 管理者を中心に職員全員で自己評価が行われており、評価の活用を通じてサービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5) 職員全員で評価の意義について理解し、外部評価の結果の中の改善すべき事項については見直しを行うなどの取り組みが行われている。地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質を確保することを理解し、そのために運営推進会議を積極的に活用している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族会をつくり、家族の意見を多く聞く機会を設けている。遠距離の家族には電話で利用者の状況を報告しながら、何でも話せる雰囲気作りに留意している。運営推進会議の際にも、家族からの意見等も出していただくよう働きかけを行い、寄せられた意見を反映できるよう職員間で話し合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会にも加入しており、青少年健全育成会からの呼びかけにより畑を活用した運動場での運動会に参加したり、老人会との交流により神社の清掃活動に参加するなど、地域の行事にも積極的に参加するよう心がけている。また、近所から季節の野菜の提供を受けたり、ボランティアも多数受け入れており積極的に地域との交流を行っている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、『地域と共生しながら家庭的な環境の中で、安心してその人らしく暮らせるようなケアを提供する』という分かりやすい独自の理念に作り直し掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については職員間で共有されている。日々の話し合いの中でも理念を実践するために具体化して話し、意見の統一を図りながらケアに反映するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域との連携を深めるよう努めており、運動会や神社の清掃参加等地域住民の一員としての役割を果たすようにしている。また、近隣者から野菜等をいただく機会が多くあり、その際にはホームの状況を伝えるなどして交流を深めている。また、ボランティアの受け入れについても積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については管理者を中心に全員で行い、ケアの質を高めるために活用している。特に管理者、介護支援専門員から評価の結果を前向きに捉え、改善に取り組む姿勢が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や利用者のご家族、地域住民の代表者、市の担当職員等による運営協議会は2ヶ月に1回開催しており、地域に開かれたホームを目指して率直な話し合いが行われており、また、地域の理解と支援を得るため、地域行事についての情報を得る機会としても活用し、実践している。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用料金を請求する際に、利用者の同意を得た上での写真入のお便りを同封したり、面会の少ない遠距離のご家族には、電話による状況報告を行うなどそれぞれに合わせて報告している。金銭管理についても家族に明細を送付し適正に処理している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会をつくり、家族からの意見を十分聴取しケアに活かすよう努めている。また、運営推進会議を通して、自由に利用者や家族からの意見を出していただくように配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少ない。また、離職する場合は2週間前に後任者に来てもらい利用者との馴染みの関係作りをし、スムーズに引き継ぎがなされるよう努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の取り組みとして、職員から研修テーマの希望を聴取し、受講の機会を確保している。また、年間の研修計画を作成し段階的な研修を行うよう検討している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相双地区の同業者を視察したりして交流を図っている。グループホーム連絡協議会にも加入し同業者との情報交換を行うなどしてサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごしながら、互いに支えあう関係が大切であると理解しており、日頃から年長者である利用者にしきたり等を教えてもらう場面がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が自分らしく過ごせるように一人ひとりの思いの把握に努めている。把握が困難な場合には、家族の意見や利用者の表情から推測している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れて日頃から利用者や家族の思いの把握に努めている。アセスメントを基に職員間で意見交換をしながら利用者の思いが反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には介護計画に設定した期間に応じて計画を見直している。利用者や家族とも話し合いをしながら要望や状況の変化がある際にも見直しを実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じて利用者の主治医やホームの協力医による往診や通院等により適切な医療が受けられるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応指針を定め、終末期の利用者や家族の意志を確認し、説明しながら支援している。ただ、ホーム側の認識の相違により重度化に伴う事前の意志確認書が取られていなかった。	○	重度化した際の対応は、利用者や家族等の不安材料となるため、早期から関係者等との話し合いを繰り返し、重度化に伴う意志確認書を作成、説明し、職員全員で方針を共有してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員はあたたかく見守りながら対応し、さりげないケアを実施している。居室を間違えて入ってしまう方に対して、側によって指し示しながら自室へ誘導している。さらに、職員は個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、一人ひとりの思いを大切に支援している。朝寝坊する人や、時間をかけてゆっくり食べている人等がいるが、職員は利用者のペースを大切にして見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは食材会社のものを基に自由メニュー等を組み合わせその時の状況に応じて決めている。食事に関する一連の作業の中で入居者ごとのできることを把握し、買い物、準備、後片づけを職員と一緒にしている。また、入居者と職員が同じ食卓を囲み同じものを楽しんで食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームの都合ではなく、利用者の希望を確認しさらに、羞恥心に配慮しながら入浴支援を行っている。体調により入浴できない場合には就寝前に足浴を実施したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	把握した一人ひとりの生活歴や能力を活かせるよう役割作りや場面作りをしている。ホーム近くにあるサロンにお茶飲みに出かけたり、ホームの畑に野菜を植えたり収穫したりすることが利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	地域のミニ運動会や清掃活動等の行事に参加している。また、買い物、散歩等入居者の希望に合わせて支援している。さらに、ホーム全体でドライブ等にも出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	情緒不安定な方がおり、以前は一時的に鍵をかけたりしたが、現在は鍵をかけることはない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画に基づき訓練を実施している。さらに、地域の婦人消防隊の協力が得られるよう働きかけをし準備が進められている。現在は、災害に備えた備蓄等は準備されていない。	○	避難訓練の状況設定も火災だけではなく、さまざまな場面設定で実施することも大切である。また、万が一の際に対応できるよう災害に備えた備蓄の準備も望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの栄養摂取量や水分量をだまかに把握している。日常的な会話の中で食べたいものを聞き取り献立に取り入れたり、体調変化に合わせてキザミ等に変えたり一人ひとりに応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、長火鉢や古い家具等が置かれており、共用空間にもこたつや神棚があり、一般家庭のような雰囲気がある。さらに、五感を刺激するため、彼岸にぼた餅を作ったり、静かに音楽を流したりと配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、タンスやクリアボックス、仏壇等を持ち込み一人ひとりが自分らしい居室作りをしている。家族の写真等も飾り、その人らしい安心して過ごせる場所になっている。		

※  は、重点項目。